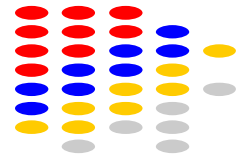


# IS マネジメント・レター



**コラム**

**最低賃金、全国平均1,121円 上げ幅「目安」上回る！**

- ◆先月4日、厚労省の中央最低賃金審議会が2025年度の最低賃金の「目安」を前年実績から63円引き上げ、平均1,118円と決定した。これを受けて、都道府県ごとに決定した2025年度の最低賃金の全国加重平均額は過去最高の時給1,121円となった。現在の加重平均額1,055円から66円増え、過去最大の引上げと額となり、上げ幅「目安」を39道府県が上回った。
- ◆今回の改定で初めて47都道府県全てで1,000円を超えた。東京の1,226円を最高に、高知、宮崎、沖縄が1,023円と最も低くなった。最大の引き上げ幅となったのは熊本で、国の目安の64円に18円上乗せし82円の引上げとなった。最高額に対する最低額の割合は83.4%と11年連続で改善した。
- ◆秋田では、国の目安64円に16円を上乗せして80円を引き上げている。岩手は秋田の決定を受けて国の目安に15円をプラスして秋田と同じ1,031円に決めている。その背景には、隣県との賃金格差が人口流出につながりかねないとの判断や国及び首長からの政治的要請があったようだ。
- ◆九州・沖縄8県の2025年度の最低賃金の答申を見ると、福岡で1,057円、大分1,035円、熊本1,034円、長崎1,031円、佐賀1,030円、鹿児島1026円、沖縄・宮崎で1,023円となっている。ただ、水準は地域のけん引役となる福岡でも全国20番目にとど

- まり、経済規模が近い北海道より18円低く、広島を28円下回り、なお「安さ」は否めない。
- ◆国の「目安」を上回る金額での決定が相次ぐ中、例年大半が10月発効だった。25年度は10月発効が20都道府県に留まり、11月が13府県、12月が8県、年越しが6県もある。これは、最低賃金を決める各地の審議会で、経営側の委員が出来るだけ遅くするように求めたためだ。
- ◆最低賃金上がるにつれ、改定の影響を受ける人は増える。受け取っていた時給が引き上げ後の最低賃金を下回る労働者の割合を示す影響率は、従業員30人未満の中小・零細で24年度に23.2%、約660万人が影響を受けるといわれる。特に影響が大きいのがアルバイトやパートだ。職種も飲食店や小売店から事務系や事務系、塾講師など専門職系に広がっている。パートアルバイトの賃金が、時給換算した正社員の給与を上回るケースもある。
- ◆人件費負担に耐えられず採用を手控える動きや給与体系の見直しと言った動きも広がる。対策としては、企業の体質強化が避けられない。最新の設備を導入し生産性を高める。セルフレジや電子柵札、AI(人工知能)需要予測型発注などの導入を進める必要がある。

情報源：日本経済新聞 2025/09/10

第24巻第04号  
Vol. 277

発行日  
2025/09/15

**目次：**

最低賃金、 全国平均1,121円 上げ幅「目安」上回る！	1
通信制高校 生徒30万人超 今年度最多更新 不登校増加 背景に	1
早期退職 はや昨年超え 1万人超 管理職年代削減で 8月末時点	1
《連載 22》 待ったなし！ 中小企業のDX化の スキームと進め方	2

**today's**

**通信制高校 生徒30万人超  
年度最多更新 不登校増加 背景に**

- ◆通信制高校に通う生徒が2025年度に初めて30万人を超え、過去最高を更新したことが文部科学省の調査で分かった。不登校の広がりが背景にある。学校の新設が相次ぐ中、不適切な運営が指摘された事例もあり、学びの本質の担保が課題となっている。
- ◆同省が27日に公表した学校基本調査(速報値)によると、通信制高校の生徒数は前年度比5%増の30万5521人。過去5年で1.5倍に増えた。全国の高校生に占める割合は同0.5ポイント増の9.6%だった。通信制高校は戦後、青年らが働きながら学べる学校として設置され、社会人や主婦の学び直しの場にもなってきた。一方、近年の生徒数急増の背景にあるのは不登校の増加だ。《中略》自分のペースで学べることから、スポーツや芸能活動の両立や海外の大学への進学を希望する生徒らの受け皿にもなっている。通信制大学の新設が相次いでいることや、各教科以外の学力をアピールできる総合型選抜が増加したことで、通信制高校から大学に進学しやすい環境も整ってきている。
- ◆通信制高校に新規参入する事業者も増え、学校数は25年度には332校。00年代には株式会社で学校開設が認められ、私立の通信制高校が急増した。生徒数や学校数が増えるなか、不適切な事例も相次いでいる。《後略》

日本経済新聞 朝刊 25/08/28【38面】

**早期退職はや昨年超え 1万人超  
管理職年代削減で 8月末時点**

- ◆日本の上場企業で人員削減が進んでいる。2025年の早期退職の募集人数は足元で1万人を超え、24年通期を早くも上回った。社数は前年より少ないが、製造業を中心に管理職年代の大規模な削減が目立つ。トランプ関税など事業環境の変化や人工知能(AI)時代を見据え、海外で先行する構造改革の動きが日本でも広がってきた。
- ◆東京商工リサーチによると、25年8月末までに募集が明らかになった国内上場企業の早期・希望退職者数は31社で計1万108人だった。24年は通期で1万9人だった。社数は前年同期より2割以上少ないが、人数は約4割も多い。パナソニックホールディングスが5000人、ジャパンドisplayが1500人募集するなど電気機器が最も多く、製造業で約9割を占めた。
- ◆背景にあるのが、米関税などに伴う景気の不透明感だ。大手シンメメーカーJUKIはグループの50歳以上65歳未満の再雇用を含む正社員を対象に希望退職を募集した。米トランプ政権による関税措置や長期化する中国経済の低迷などで厳しい事業環境が続くとみて「人的リソースの最適配置及び規模の適正化を行う」と言う。《中略》
- ◆デジタル化の急速な発展も企業の事業構造の転換を促す。AI導入で企業はより積極的なコスト削減が可能になった。競争力確保へ更なる重点投資も必要だ。《後略》

日本経済新聞 朝刊 25/09/06【7面】

HRM(ヒューマンリソースマネジメント)に役立つ

# ISマネジメントレター

Vol.277号 2025/09/15

発行人：片岡 俊彦  
発行所：イノベーションサポート  
福岡市南区大橋 3-16-5-304  
〒815-0033

携帯：090-1517-7758 FAX：092(512)6452



e-mail  
kataoka@inno-  
support.com



URL  
http://www.inno-  
supprt.com

雑感：多くの映画やテレビドラマに出演した吉行和子氏(享年90歳)が2日に亡くなった。事実上の退陣勧告と言える自民党総裁選の前倒し要求が広がる中、党内の分断を回避するため粘り腰だった石破首相が7日に退陣を発表。そして、16日には、映画「明日に向かって撃て」などに主演した往年のスターのロバートレッドフォード氏が89歳で亡くなった。何か物悲しいニュースばかりが飛び込んできた残暑の秋だ。

連載22回

## 待たなし!

# 中小企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)化のスキームと進め方

### Chapter 3 DX時代の開発手法

#### 8. デジタイゼーションを素早く始める

ここではデジタイゼーションを素早く行い、スピーディに結果を出すための開発方法を考えます。

##### 1) 素早いリリースが不可欠

業務システムは、完璧なものを作らないといけないというイメージがあるかもしれませんが、ユーザビリティの視点からは、完璧さはデメリットになる可能性があります。理由は、リリース後に修正を行うのが通常で、リリース時に完成度を高めれば高めるほど、修正コストがかさみます。そのため、完璧さは求めず、ある程度のクオリティで素早くリリースすることを目指しましょう。そうすることでユーザーの声も反映でき、結果としてより良いシステムに仕上がります。

##### 2) 作らずにデジタイゼーションを実現する

デジタイゼーションを素早く行うために活用したいのがSaaS。実現したい業務システムごとに様々なSaaSがリリースされています。利用料は月額数千円程度からあります。カスタマージャーニーマップで各業務フローを把握したうえでSaaSに切り替えると、無駄なシステムを自社で開発せずに済みます。また、SaaSに業務を移管することで業務

データがクラウドのたまり、ここから社内の別のシステムを連携できる点もSaaSのメリットです。

##### 3) ユーザビリティを素速く検証する開発方法

また、SaaSを使わず、自社で開発する場合は「アジャイル開発」にしましょう。システム開発手法は大きく2つあります。1つはウォーターフォールで、水が上から下に一方的に流れていくように、最初に設計したスケジュールや仕様に従って開発を進める方法です。進捗が分かり易い反面、柔軟な対応が難しいというデメリットもあります。もう一つが「アジャイル開発」です。「アジャイル」とは「素早い」と言う意味で、細かい機能単位でリリースし、ユーザーの反応を取り込みながら改善を繰り返すという開発方法です。ウォーターフォールだと後戻りが出来ず、また最初に固めた仕様通りに作ることが求められるので、途中で新しいニーズを取り込んだり、機能の追加が出来ません。一方、アジャイルはそういったウォーターフォールの欠点を補う開発手法と言えますが、計画や仕様が曖昧になる可能性があります。

## ★★★★イノベーションサポートのコンセプト★★★★

イノベーションサポートは、戦略実現型人事マネジメントへの変革、組織・人材の開発・活性化の事業を推進・サポートをいたします。

### ★★★★コンサルティング実績

#### ●経営戦略・ビジョンづくり

- 物流サービス企業/  
中期経営計画づくり〜  
業績管理の仕組み構築
- 広告代理店/  
年度経営計画の策定  
〜業績管理の定着支援

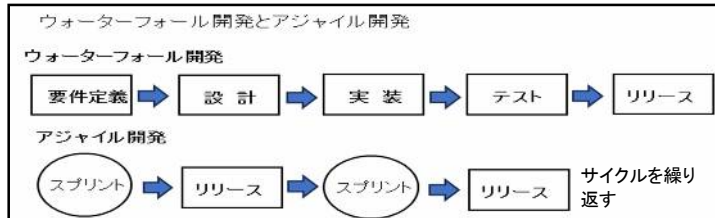
#### ●人事マネジメントシステム構築

- マンションメーカー/  
年俸制と目標管理制度  
の導入・定着化支援
- 医療機器商社/  
人事処遇制度改定と  
人事諸制度見直し支援

#### ●研修、セミナー

- 情報システム企業/  
次世代ビジネスリーダー養成研修
- 官公庁/「会計 決算書の読み方」研修

(ほか)



\*アジャイル開発でのスプリントとは、1~4週間で設定された目標(機能や仕様)に対し成果物を出す取り組みの活動。

#### 9. 開発をしないデジタイゼーション

##### 1) 対象業務を無くす

デジタイゼーションの前に行うべきことは、「その業務をなくせるか」の検討です。社内業務は「もともとやっている」というケースも多く、よく考えてみると実は必須ではないということがあります。これらをなくすことが出来れば、業務工数の削減はもちろん、他の重要な業務に時間を割くことが可能になります。当たり前を疑うことが出来る現場は少ないと思います。DXプロジェクトチーム

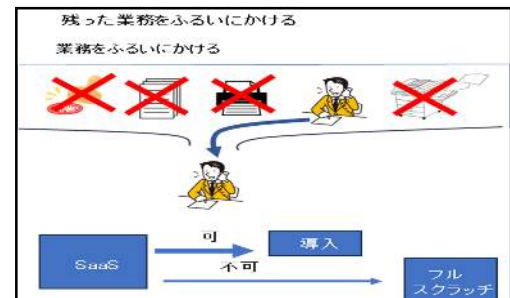
が第三者として入るからこそ、見直すきっかけになります。

##### 2) 対象業務を減らす

業務をなくせることが分かっていても、いきなり実施するのは難しいかもしれません。その場合は、回数や頻度を減らす方法で考えていきましょう。そうして残った業務を、まずはSaaSで実施できなければ、フルスクラッチで開発する。これがDX化の原則です。



\*当然のように行ってる業務につき、それが本当に必要なものかを考えることからスタート



\*まず業務自体が必要かどうかをふるいにかける。そして、SaaSへ置き換え可能かを検討。それが無理ならフルスクラッチで開発する